

バロッカス弁護士，ご列席の皆様

本日，日本・ポルトガル間の交流促進に多大な貢献をされてこられた，マヌエル・ペレイラ・バロッカス氏に対し，瑞宝中綬章を伝達する式典を開催できることを嬉しく思います。

バロッカス氏は，ポルトガルを代表する弁護士の1人であり，また約40年間の長年にわたり，ポルトガルと日本の関係緊密化に尽力されてきました。

バロッカス弁護士には，日本国大使館の顧問弁護士をお務め頂いておりますが，その関係は1979年まで遡ります。当時，大使館は大使公邸の物件を探しておりましたが，その際にアドバイスをいただいたのがバロッカス弁護士でした。最終的に，いま皆さまにいらしていただいている，この建物を大使公邸にすることに決めたのですが，なかなか引き渡し手続が上手くいかず，1980年にバロッカス氏に弁護士として解決に尽力いただきました。このレステロ通り周辺は，各国の大使公邸が集まっている地域ですが，これだけ眺めの良い公邸は，ほかに見たことがありません。まさに我が国の外交をすすめる顔となる物件であり，本日，この大使公邸においてバロッカス氏に勲章を伝達できることを大変に嬉しく思います。

それ以来，我々はさまざまな場面でバロッカス弁護士に助けられて参りました。ご案内のとおり，ポルトガルは1974年のカーネーション革命を経て民主主義を確立し，その後1986年には欧州共同体への加盟を果たしましたが，この期間を通じて，ポルトガル国内法制度が大きく変化し続けたことは想像に難くありません。そのような過渡期において，我々が着実に業務に取り組むことが出来たことについて，バロッカス弁護士の貢献には非常に大きなものがございました。そして，今日でも，随時様々な相談をさせて頂き，的確なアドバイスを頂戴しているところであり，改めて厚く御礼申し上げます。

また，バロッカス氏は現在ポルトガル日本商工会議所の総会議長を務めておられますが，日本企業のポルトガル進出が相次いだ際，多くの企業が創業に際してバロッカス氏のお世話になり，中には，以後も顧問弁護士として支えて頂いているケースもあるとうかがっております。本日，この式典に日系企業の方々が参加され，そして祝辞も寄せられたことは，氏が日ポルトガル両国の経済関係にいかに大きな貢献をされてきたかの証左となるのであり，深甚なる敬意と謝意を表する次第です。

一方，こうした日本企業の進出もあり，1993年には在ポルトガル日本人会が発足しました。当時，日本人会の法人格取得に際しては，バロッカス氏の全面的な支援をいただき，更には，その後の活動に際しても多大な貢献をいただいたと承知しております。本日は，

ポルトガルにおける邦人社会の構築に貢献されてこられた方々にもご参加いただいておりますが、バロッカス氏は、こうした立役者の皆さまと並び、日本人の方々がポルトガルとともに歩み、その社会に貢献していく上で、その基礎を築かれたお1人と言って過言ではありません。

こうした御貢献に対しましても、心からの感謝をお伝えしたいと思います。

最後に、今日、日本とポルトガルの関係は新たな転機を迎えております。昨年の秋には大規模な経済ミッションが相次いでポルトガルを訪問しました。特に、11月に訪問した経団連欧州委員会の一団は、大統領や首相をはじめ多くの政府・財界関係者と意見交換を行い、今後の更なる両国間交流の可能性を探りました。また、先日2月1日には、日EU経済連携協定が発効しました。これにより、例えばポルトガル産ワインは日本に関税ゼロで輸出できるようになり、この他、チーズ、衣料品、靴など多くの品目も自由化され、対日輸出の可能性が増大したと言われております。同時に、この協定を通じて、今後、日本企業の欧州への進出が拡大することも期待されております。

このように両国経済関係は一層の拡大に向けて展望が開けており、それ故、日本企業の求める情報を的確に提供し、その相談に親身に寄り添うことができるバロッカス氏の存在が果たされる意義は益々大きなものとなっていると言えましょう。

バロッカス氏の更なるご健勝と、バロッカス弁護士事務所のますますのご発展を祈念して、わたしの御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。